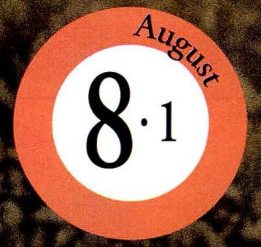


小田原

広

報



1 9 9 8
No. 7 2 8



おだわら
百科事典

小田原に競馬場があった

特集

荒れる青少年
闘う親たち

小田原に競馬場があった

小田原の忘れられた歴史や人々から、まちの素顔を探ってきた「おだわら百科事典」。

前回は、全国に先駆けたリゾート施設として設計されるも、ついには開業に至らなかった「幻の小田原ホテル」を紹介しました。今回は、1枚の馬券に小田原再興の夢をかけた競馬場の紹介です。

図 広報聴室 ☎ 331261

あなたは、小田原に競馬場があったことを知っていますか？

それは、小田原駅西口を出て、市役所に向かう途中にある山手橋を過ぎた、谷津花岳に存在しました。

再興の夢をかけた競馬場

大正12年、マグニチュード7.9、死者9万人、り災者340万人を出した関東大震災。小田原も例外に漏れずこの震災にのみ込まれ、衰滅の危機に立たされました。小田原競馬場は、この危機から、まちの再興に夢を馳せて建設されたのです。

「元々は小田原城の大外郭の北側に位置するこの場所。競馬場ができる以前は、一面の梅林が広がっていました。ここは、足柄平野に丹沢山麓、前には小田原のまちと相模湾を見下ろすことができる最高の眺めの場所でした。」と地元・城源寺住職 古林肇道さんは当時を振り返って話してくれま

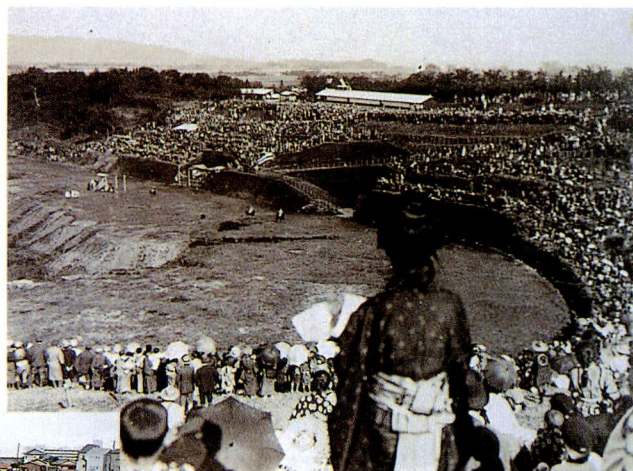
した。
（掲載写真の多くは、古林さんから提供されたものです）

丘をすり鉢状に切り取った競馬場には、底の部分にコースが造られ、その周りを取り囲むように観客席が現れました。建設工事には、今では見られないトロッコを使った工法が用いられ、大規模なものとなりました。

まるでお祭りのような盛り上がり

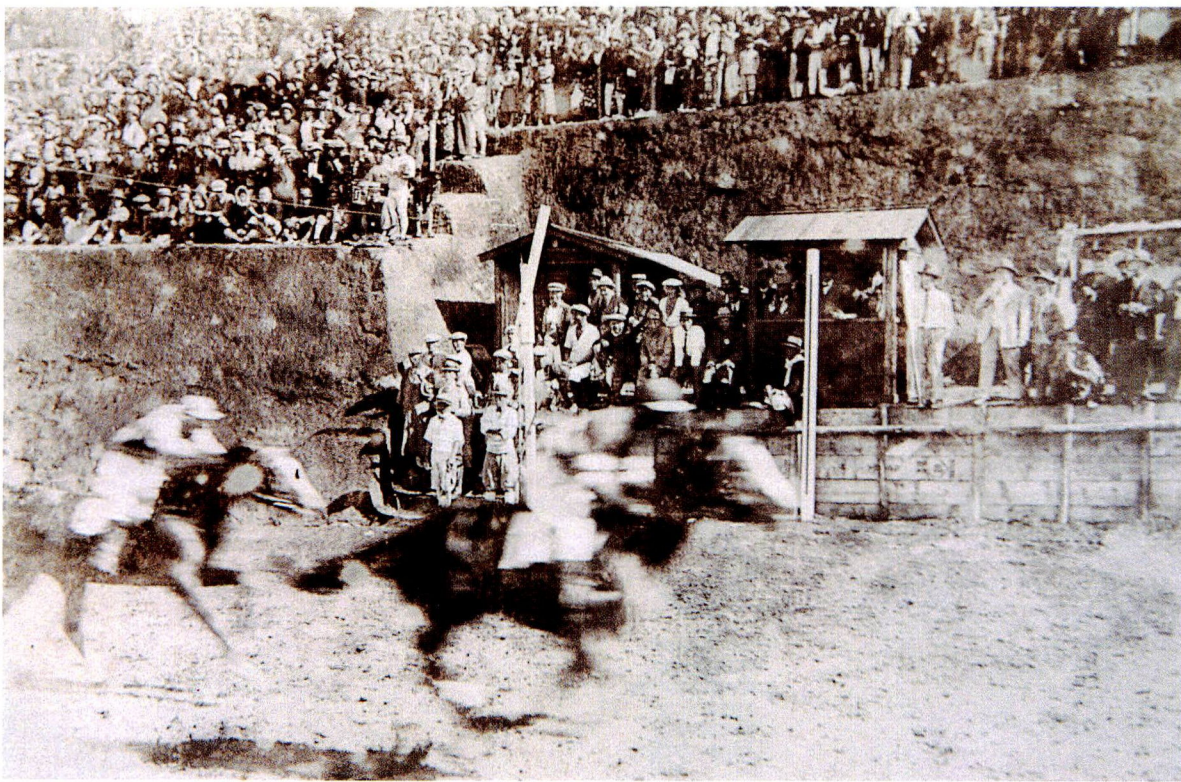
大正14年10月の第1回開催では、3日間で6万人もの観客が小田原の競馬に沸きました。馬券は、1枚1円。（そのころのアルバイト従業員の賃金が日当約50銭）。

当時、競走馬専用の厩舎はなく、近くの農家の馬屋や牛小屋を借りていました。小屋を貸した農家の人々は、いくらかの謝礼金を受け取り、そのお金で馬券を買っては



小田原競馬場（上）と、現在の住宅街（左）。当時の競馬場の面影はありませんが、すり鉢状の地形の様子は今もうかがえます。





競馬を楽しんでいました。ただし、その馬券で富を得た、という話はあまり聞かなかったようです。

競馬場は熱気で包まれ、その雰囲気は、まるでお祭りのようでした。開催日には、花火が打ち上げられ、観覧席には売店や飲食店が客を集めていました。

今は閑静な住宅地に

震災の中からの復興を目指して造られたこの小田原競馬場も、昭和5年にその幕を閉じました。競馬場はクレー射撃場や海軍航空技術研究所などに変貌し、戦争が終わった今では、すっかり住宅地に姿を変え、往時をしのぶ面影はありません。

しかし、当時を知る人々の心の中には、今もなお、間近で見た競走馬の力強い走り、とロマンが残っています。

小田原競馬場を見守ってきた人々にとって、夢の結末はどのように写っているのでしょうか。

残り続けるものもあれば、消えゆくものもあります。そんな時代の移り変わりの中で、思い出すだけで心熱くなる、そういう場所にまつわる思い出も、大切にしたいものです。

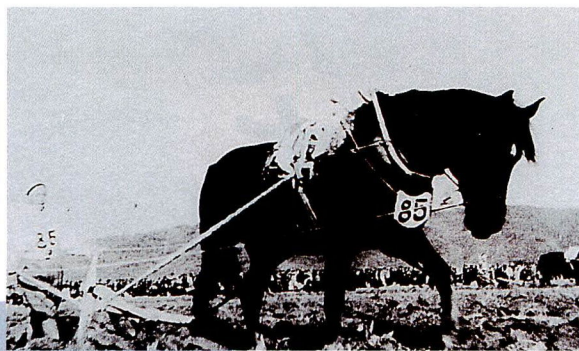
*表紙とおだわら百科事典に掲載された写真の何点かは、市立図書館発行の「一枚の古い写真」に掲載されたものです。この本には、競馬場の写真のほか、小田原の市制施行から50年にわたる歩みの光と影の部分の記録を写真を通して紹介しています。

近くこの再版本の発行を予定していますのでご期待ください。

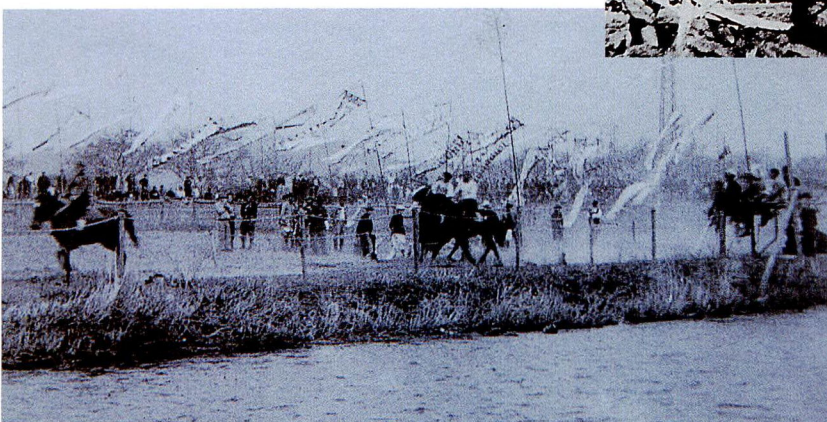
大正の終わりから昭和にかけて、馬を使って、いかに早く上手に田畑を耕せるかを競う「馬耕大会」が行われていました。昭和15年に豊川村で行われた紀元2600年記念全国馬耕大会には、満州国皇帝溥儀や、酒井忠正伯爵などが臨席されました。

全国大会で上位に入賞した馬は、天皇陛下の前で馬耕を披露したそうです。このとき小田原の「梅風号」という馬が入賞しています。

(写真は小田原市発行の「聞き語りおだわらふるさとの記憶」から抜粋)



競走馬が出場するいわゆる競馬（草競馬）と違い、普通の農家で飼っている農耕馬で行う「旗競馬」は、中管根や蓮正寺、そして酒匂などで開かれています。会場となる川の河川敷や浜辺などには、近所から馬の好きな人が大勢集まりました。



小田原競馬場については、小田原市ホームページで、さらに詳しく紹介しています。 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/>

「親と闘った少年」

社会的な問題となっている青少年の非行。多くは今話題となっているのが、

“キル”という言葉に象徴される、ナイフをもちた少年による凶悪事件。

一部にある“キル”“たんだから

仕方がないという風潮には同調できませんが、本人だけにすべての責めを負わせるのも

短絡すぎるように感じます。

青少年の教育は、学校、地域そして家庭にそれぞれの実任があると言われます。

この特集では、この社会問題をよくに家庭との関わりから原因を探ります。

学校で、家庭内ですさまじく荒れた子と、ふつかり合いながら乗り越えてきた

親の闘いをトキエメントで紹介します。

今あらためて問われる親の存在意義と役割を、ともに考えていきたいと思います。

親への反発から、 とことん荒れた少年はなぜ立ち直ったか

(写真は本文と関係ありません)

スポーツ万能で両親を期待させながら、中学に入って突如、荒れはじめた少年がいた。恐喝事件で逮捕され、鑑別所に入り、覚醒剤にまで手を出したA君。だが今では好きな仕事を見つけ、そして落ち着いた。7年間に及ぶ彼自身の苦しみ、親の闘いを追ってみた。

中学1年で茶髪に、そして、闘いが始まった。

小学校時代のA君を知る人は、当時、彼の将来をこんなふうに思い描いていたに違いない。「きっと有名な野球選手になるだろう。運動は何でもうまいから、ほかのスポーツ選手かも……」高校時代に野球でならした父の影響もあり、小学校3年生で野球を始めたA君の上達はそれほど早く、抜群の才能を感じさせた。父は息子の活躍に夢中になった。

父が初めて学校から呼び出しを受けたのは、彼が中学1年の冬のこと。上級生10人ほどに囲まれ、けんか寸前に、教師が駆けつけたという事件だ。その後1週間、教師は毎朝バイクでA君を迎えに来てくれたというが、彼はそこから確実に変わりはじめていく。

髪の毛を茶色に染めた。深い意味はなく、もともと目立つのが好きで、ただ興味があつたからだというが、当時、髪を染める生徒はまだ珍しかった。中学に入っても野球を続け、大活躍したA君だったが、髪を染めた彼に不良と呼ばれるグループが近づいてくるようになる。

「仲間にならないか?」「部活なんかやめろ」。誘惑の手が伸びてくる。A君が道からそれはじめていることに気づいた親は、古くからの彼の友人に不良仲間から引き戻してくれるよう依頼する。そのおかげで一度は自分を取り戻したかに見えたが、2年生

になると、再び荒れはじめる。学校の時計を石で壊したり、下級生を呼び出して殴ったりしたこともある。そんなときは仲間全員の親が呼び出されたが、父親が来たのはA君の家のみ。父親は仕事で来られなかったり、母親一人に任せっきりであったりというほかの家庭の姿に、A君の父は疑問を抱いたという。

中学3年の秋に部活が終了すると、A君は坂道をころげ落ちるように、不良仲間とのつき合いにはまり込んでいく。タバコを吸う。仲間とともに下級生を殴る。他校の生徒とけんかする。当時の彼の心を占めていたもの、それは「親がイヤだ」という強烈な思い。ともに優秀で勤勉な両親と違い、勉強嫌いなために大きなプレッシャーを感じていた彼は徹底的に反発した。何か言われるたびに怒り、「それなら高校なんか行かない」「出て行く」と荒れ、まともな会話にならないまま家を飛び出し、不良仲間との夜遊びに走る。親を殴ることだけは決してしなかったが、そのかわり家中の壁をボコボコにした。家の車のフロントガラスをヘルメットで粉々に叩き割った。彼が外出しているとき、家族は密かにホッとしたりという。そのころ、両親の脳裏を時折かすめたのは金属バットや包丁の事件。そんなとき父は言った。「おまえがやるならオレも殺すつもりで行く」。それでも

両親はあきらめずに善悪の区別を説き、「人に迷惑をかけるな」と言い続けた。担任をはじめ、A君がころうじて信頼する先生、そしていろいろな相談機関や寺の僧侶にも相談した。もちろんA君は教師にも再三注意されたが、身に覚えのない事件まで「おまえがやったろう」と言われ、さらに怒りを覚えた。しかしその一方で、親のことをどうでもいいと思っただことはなかった。

「親には言わないでくれ。親は関係ないだろ」教





師に向かつてそう叫ぶ自分に、彼自身、矛盾を感じていたのも事実だった。そんな中、どうにか高校へ進学するが、1年の1学期には早くも問題を起し、停学処分。それでも一度はチャンスもあった。停学処分後、担任のすすめもあり、野球部への入部を決

窃盗、恐喝……そして逮捕、鑑別所行き。両親は、泣いた

「停学になって学校に行ってなかったから、一人で孤立してた。つまらなかつた」そうA君は当時を思い出す。この停学を境に、彼はさらにすさんでいった。停学が解けてもまったく学校に行かなくなり、制服のままで仲間と遊び、バイクを無免許で乗り回す日々。「一生遊んで暮らせばいい」それが、そのころの彼の思いだった。それでも荒れる彼を見放さず、必死で会話を持とうとしていた両親は、あきらめない。父のすすめで、彼は他県へ働きに出る。しかし休みのたびに小田原へ戻り、彼は昔の友人と遊んだ。遊ぶだけではない。ひたたくり、窃盗、恐喝そして逮捕。留置場と鑑別所へ1か月入ることになる。知らせを受け、警察へ駆けつけた両親は、黒板に書かれた「逮捕」の二文字に衝撃を受けた。ようやく会った息子の姿はタオルをかけた両手の手錠に腰縄。母は声を上げて泣き、その場では歯を食いしば

めたのだ。やる気になったA君だったが、頭も坊主にしたまきとその日、またも誘惑に負けてしまふ。タバコを吸っているのが見つかり、二度目の停学処分。当然、野球への道も閉ざされた。

って耐えた父も、あとで泣けてたまらなかつたという。そして裁判。裁判官はA君の両親に対して「親の責任は果たした」と評価したが、父はそれに抵抗を感じたという。「そうじゃない。親も悪い。学校、社会、親……すべて引くくめて責任があるだろうが、最終的には親の責任なんだ」

両親は何度も鑑別所に足を運び、A君と面会した。わざわざ自分に会いに来てくれた両親に「心配かけちゃいけないかな」と感じたというが、まだ「真面目になろう」とまでは思えなかつた。鑑別所では毎日、日記をつけるのが規則だ。そこに書いた「真面目になる」の言葉も半分は本心だが、半分は少年院に行かずに早く外へ出たいためだった。そして1か月後、ようやく出所。その後、彼はまた他県へ働きに行くが、運悪く、その会社が倒産。もともと会社での人間関係もうまくいっていなかった。





覚醒剤の誘惑 地獄の苦しみが始まった……

小田原に帰ってきたA君は、再び昔の仲間とつき合うようになった。そして、今までも増して地獄のような日々が始まることになる。覚醒剤との出会いだった。仲間全員、初めはちよつとした興味だった。もちろん、その怖さは知っていたが、「すぐやめられる」と思っていた。だが、「すぐやめられる」わけではない。次第が増えていった覚醒剤の量は1日1グラムにもなった。

覚醒剤をやっていると異常に集中力が高まる。時間が飛ぶように過ぎ、たった5分ほどのつもりが1〜2時間もたっている。とてつもない眠気に襲われる。契約社員として働いていた会社でも、途中で体調がおかしくなり、帰って来てしまう。食事はまったくとれず、体はガリガリ。イライラして眠れない。鏡を見ると目の下は真っ黒だ。あまりのつらさから、またやってしまう。その繰り返しだった。もちろん親とは目を合わせられない。友人の家や車に寝泊ま

りして、1週間家に帰らないこともザラだった。もちろん自分自身、危機感を感じていた。イライラするあまり、家の壁はまたポコポコに。「自分が何を言っているのか、何を言ったのかわからないし、忘れちゃう。友だちと10分間電話で話している間に同じことを20回も言ってしまうんだ」

自分が半分おかしくなっているのもわかっていた。もちろん覚醒剤をやめようと思ったが、ムリだった。そのころ、当然、両親も彼の状態に気がついた。「息子の部屋で器具を見つけたんです。人に相談したら、それは覚醒剤だろうと……愕然としました。まさか、そこまで……と」

来るところまで来てしまったと父は悟った。

「もし、ここで再び逮捕されたら、息子は少年院送り。出てくるのはきつと20歳すぎでしょう」

「もうギリギリでした。何としても、何が何でも息子を助け出さなければならぬ。息子と刺し違えるよ

うな覚悟をしました」

そしてもう一人、A君を必死で助け出そうと願う人間がいた。当時からつき合っていたA君の彼女だった。覚醒剤をやっていることを知った彼女は、A君の家へ来て、部屋にあった覚醒剤をすべて捨て、こう言った。「やめなかつたら別れる！」

彼女を真剣に、そして大事に思い、失いたくないと思っていたA君は、イライラしながらも部屋に閉じこもり、覚醒剤をやめる闘いに挑むことになる。自室で一人耐えること半年。その苦しみは想像を絶するものだったという。そのころから、両親とも将来について話し合い始めた。覚醒剤が切れるつらさをまぎらわせるために、両親の買物につき合ったりして、一緒に外出するように。もちろん両親とは毎日の食事と一緒にし、彼女も毎日遊びに来てくれた。そのかげでは彼女と両親が相談し合い、励まし合っていたという。そして、3〜4か月はまり込んでいた覚醒剤の恐怖からA君はようやくよく抜け出した。

大好きな車の仕事、 温かい同僚を得て

覚醒剤をやめようとしたところから自然に、非行仲間には会わなくなった。昼と夜が逆転し、A君が目覚めると両親がすでに自宅に戻っていたこと、彼女のすすめで携帯電話を持たなくなったことも幸いした。その後、A君はさらに劇的に変わっていく。自分で自動車店の求人広告を見つけ、一人で面接に行き、みごと採用されたのだ。初めて自分から行動し、獲得した仕事だった。

勤め始めた彼は両親も目を見張る変化を遂げていく。もともと車やバイクが好きだった彼にとっては希望どおりの仕事。人間関係も温かい。両親ともふつうに話せるようになり、休日には父の仕事を手伝いに行ったりもする。電話の受け答えもすっかり大人びて、知人から「Aちゃん、変わったねえ」と驚かれることもしばしばだ。

「自分が変わったなら、人のイヤなところもイヤに見えなくなった。その人の気持ちや機嫌、立場なんかがわかるようになったんだと思っ」

彼はこうつけ加える。「親にも楽させてやりたい。皆さん迷惑かけたから、老後くらい僕が見てやらないと。それにあれだけ荒れた時期、取っ組み合いはしても絶対親だけは殴らなかつたのは、結局、親がずっと好きだったからだと思う。親も僕を殴らなかつたし。もし殴られてたら、殴り返していたと思う。今になって思うのは親の言うことは正しかった、親の言うとおりにしていればまちがいがなかったということ」

それに対して父はこう言う。「確かに息子がどんなに荒れた時期も、心はどこかでつながっていたのかも。いつでも『おまえが一番大事なんだ。おまえが可愛いから言っているんだ』ということは伝え続けていました。でも、いくら子供が可愛くて期待している親のお仕着せはいけませんね。息子も自分で性に合う仕事を見つけ、いい上司や仲間恵まれてガラツと変わったんですから」

そんな父が荒れる息子と向き合ってたことは何だったのだろう。「私たち親子関係で、何がいけなかつたのか、何が功を奏したのか、実は今でもよくわかりません。ただ思えるのは、なるべく小さいうちにその子を見極めることが大事だったなということ。ほめてやると伸びるのか、叱るとがんばるのか……。それに子供の気持ちになって目線を合わせて一緒に話し合うこと。そして裏切られても裏切られても信用してやったことが良かったのかな」と語る。

A君の父のように、育児を母親任せにせず、父親も一緒に取り組むことも大切だ。A君もこう語る。「荒れる時期、母は感情的で僕と一緒にカッカしちゃうから、確かに父のほうが話せた。だいたい僕を含めて荒れるヤツって甘えん坊の寂しがりや。誰かにかまってほしくて、見てほしくて荒れるんだ。でも僕の場合は、親に相手にされなかつたり、言葉をかけてもらえないということも一度もなかつた。もし見放されていたら、もっとおかしくなっていただろうな」

そんなA君は今、話題の“キレル青少年”についてどう思っているのだろう。「度が過ぎていると思う。『持たない』とやられるから」ってナイフを持つてる後輩もいる。でも本当にキレてナイフ出すのは、派手に荒れるヤツじゃなくて、ふだんはおとなしくていじめられてるヤツなんだよね。冷静に分析するA君を見ながら父が微笑む。「息子が落ち着いても、まだまだ安心できないと思っていましたが、最近、妻も私もようやくその気持ち薄らいできました」

A君は今年、保護観察が取れ、仕事も軌道にのってきた。人生はこれからだ。

愛情や信頼関係を ないがしろにしてきたツケ

青少年育成コーディネーター 伊藤幸弘さん

カウンセラーとして活躍する伊藤さんはユニークな経歴の持ち主だ。20歳で1万5000人を束ねる暴走族集団の総長となり、逮捕されて服役。その後は自分の経験を生かして非行少年のカウンセリングに携わり、100人以上を更生させている。そんな氏に子供たちが荒れる理由と親の役割について伺った。

過干渉、愛情不足。 そんな親が子供を追いつめる

刑務所入りまでした自分自身の青春時代、そして更生の経験を踏まえて、伊藤さんは子供たちが荒れる理由を「親と子の誤解の結果」と説明する。「子供が可愛いからこそ、親はその将来を思って塾に行かせたり、いろいろアドバイスしたりする。親として当然のことだが、それが過ぎると過干渉。子供にとってははうっとうしいし、すべてが押しつけでしかありません。その証拠に親は『私は子煩悩で……』と言うのに、その子供は『親に甘えたことがない』と言うことが多いんです」

過保護はいいが、過干渉はいけない、それが伊藤さんの考えだ。ふつう過保護はよくないもののようにいわれるが、俗に言う“キレる青少年”の中には愛情不足で育てられた子供が多いという。「幼い頃に自分の要求が満たされず、欲求不満を抱えたまま育った子は、他人に優しくできないし、生き物を可愛がることもできない。動物をいじめて遊んだり、家庭内暴力に走ったりする子にそういう面が強いんです。また、満たされない精神の安定剤としてナイフを持つてしまうことも多いといえます」と伊藤さん。子供時代は頼ったり頼られたりという依存関係を親子の間で日常的に訓練することで人との信頼関係を深めていく。その上で過保護に育てられると自然に過保護状態から抜け出したいと自立心が芽生えるものだが、親が早く自立させようとするのは過干渉。

自立を押しつけても自分の人生がなくなるだけだと伊藤さんは語る。自然に自立していけない子供がとくに登校拒否などに陥るといふのだ。

過保護とは子どもの要求を十分満たしてやること

で、「物質的なものを与えすぎる過保護は子供をワガママにしますが、精神的には過保護が大切。もちろん甘やかして、ほめるだけの過保護ではありません。ほめるときも、ほめて、そして認めてやること。『いい子だね』だけでなく『おまえにはこんな力があるんだね。みんながこう変わったよ』などつけ加えて。その中で親子の信頼関係を作り上げていけば、子供が荒れることもないはずですよ」



信頼のない父親が叱っても、よけい信頼関係を失うだけ

では、親が子供から信頼されるにはどうしたらいいのか。伊藤さんは「子供との約束を破らないこと」「体罰など理不尽な叱り方をしないこと」を挙げてくれた。「日本の父親は忙しくて、よく子供との約束を破るでしょう。『今度の日曜日、遊びに連れて行く』と言っていたのに、仕事やゴルフでダメになる。それが繰り返されて子供の信頼をつぶしていくんです。親が約束を守る習慣を持っていたら、子供も約束を守るようになる。子供との約束を破らなければ、叱るときには厳しく言えるんです」

また体罰をはじめとした叱り方もポイントだと伊藤さんは言う。「親にとってはちょっとした体罰にすぎなくても、子供は大変なショックを受けて『いか仕返ししてやる』と感ずることも。実際、幼児期に親に体罰を受けた子供が家庭内暴力に走ることも少なくありません。それに体罰に限らず父親は叱り方をまちがえていることが多い。仕事で帰りが遅いから、必然的にごはんの最中に小言を言うことが多いでしょう。子供がいちばん安らぐのは食事とお風呂に入るとき。そのとき、もともと信頼のない父親に叱られたら、よけい信頼感を失いますよ」。さらに伊藤さんがアドバイスするのは、叱ったあとのフォローの大切さである。伊藤さんが話を聞いた中高生のほとんどが「親が怒っても、あとでフォローしてくれたら納得する」と言うそうだが、でも実際は、親は言うだけ言って怒りっぱなしだから大嫌いだ、と。「そういうふうに子供のころからないがしるにしてきたツケが、



思春期になって出てくるんです。そのときになって信頼関係のない親が叱っても止められない。特に父親との関係は微妙です。父親は理論的だし、プライドが高い。そのプライドが破壊されないように、子供との距離を置いてしまおう。仮に殴られたりすると男として力で負けるのはプライドが許さないから、方向を変えて妻を責めたりしてしまおう」

荒れる子に必要なのは 幼児期のやり直し

伊藤さんがよく親たちにアドバイスすることがある。父親には「童心に返って子供と一緒に遊んでほしい」、母親には「楽しんで子育てをしてください」ということだ。「お父さんには『日曜日だから』などという義務感からでなく、自分が楽しんで子供と遊んでほしい。いつも威圧感のあるお父さんが楽しんで遊んでいたら、子供は『自分と同じじゃないか』とスツと入ってこられるでしょう。そこからきずなが生まれるんです。また、お母さんが楽しんで子育てをすれば、当然、子供との信頼関係ができる。そんな子供はいつかちゃんと親を助けてくれますよ」

ところで、不幸にもそうした子育てに失敗し、子供が荒れはじめってしまったとしたら、親はいつたいどうしたらいいのだろうか。伊藤さんはこうアドバイスする。「非行をする子たちは『真面目な友だちより不良仲間のほうが温かい』と言うんです。そもそも、こういう子たちはワガママで寂しがりで甘ったれ。これは本来、幼児期の感情ですが、家庭の中でそれを与えられていなかったということです。こうした気持ちをふつうの友だちに示しても受け入れられない。でも非行仲間たちならわかり合える。子供がそんな気持ちに陥っているのなら、幼児期をもう一度やり直すことです」

の常識のない親たちだ。毎日のあいさつなどごく簡単な常識については子供をうるさくしつけるのに、もう少しことがやっかいになると、とたんに非常識になる親が多いという。「たとえば子供が友だちのものを黙って持ってきてしまおう。それを子供のやることだからと甘く見ず、『これは泥棒だ』と重大に考え、子供を問い詰めてじっくり言い聞かせる。子供が口答えせずに泣いても、それは理解して反省しているのではなくその場を逃れたいだけ。それをきちんとわからせるまで厳しく話して聞かせる。それができない常識のない親が多いんです」

子供時代、要求を満たされなくて育った子供ならば、彼らが出す要求をなるべくのもんでみる。免許やバイクなどものを買って与えることではない。たとえば子供が暴走族の集会に行きたいというなら行かせてみるのもいい。「行かせはするが、自分が責任を取れる範囲で」という条件つきでだ。そんなふうな要求を満たしてもらえたら、不思議に子供はあれほど行きたくかった集会が「何だ、こんなものか」と思うことが多いのだという。そこからが発端だと、伊藤さんは説明する。

また子供が荒れて親が悩んでいるなら、それをはつきり言葉で子に告げることが大事だとも。何を悩み、何を怒っているのかきちんと話してやると、子供はその場ではわからなくても、ちゃんと心に感じているもの。たとえば孤独感に襲われたとき、自身自身が親になったとき、父や母が言った言葉は反省材料として必ず胸に響くという。「僕の場合は出所したとき温かく迎えてくれた会社の社長や同僚、その後つき合いはじめた彼女に依存することで立ち直ることができました。そんなふうには依存し、信用できない大人がそばにいてくれれば、子供は必ず立ち直る。その役割を親が果たせればベストなんです」

最近、子供のことは何でも知っている？ 子供と何を話しました？

青少年育成コーディネーターの伊藤幸弘さんは、子供たちが荒れる理由に「親と子の誤解の結果」をあげています。親は仕事で忙しい、子供も塾で忙しいという現代でも、会話をしたり、ふれあったりする時間は十分持たたいものです。ここで紹介する統計は、すべて総務庁青少年対策本部が青少年を対象に調査したものです。お宅のご家庭ではいかがですか？

親との会話

(対象：小学校4年生～高校生)

頻度は 父親との会話の頻度をみると、「非常によく話す」「話す方」と回答した男子は、小学4～6年生が74%、中学生で66%、高校生で60%、女子は小学4～6年生で79%、中学生・高校生が70%と年齢とともに減少している。一方、母親との会話をみると、男子は小学4～6年生が90%で、やはり年齢とともに減少していくのに比べ、女子は年齢に関係なく、90%以上となっている。

内容

父親との会話の内容は、男女とも小学4年生～中学生が「趣味や遊び」「友達のこと」「学校や成績のこと」が上位に、高校生では「進路や将来」が加わってくる。また、母親との会話は、男子が父親との会話と類似しているの比べ、女子では全般的に「友達のこと」が上位に上がっている。

人生観

人の暮らし方 (対象：高校生)

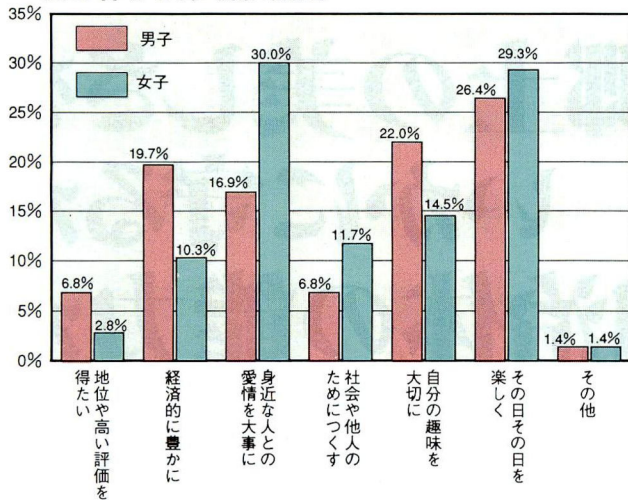
「その日その日を楽しみたい」と回答した男子が一番多く26%、「身近な人との愛情を大事にした」「自分の趣味を大切にしたい」と答えたのが、それぞれ17%、22%となっている。女子は「身近な人との愛情を大事にしたい」が一番多く30%となっている。

悩みや心配ごと

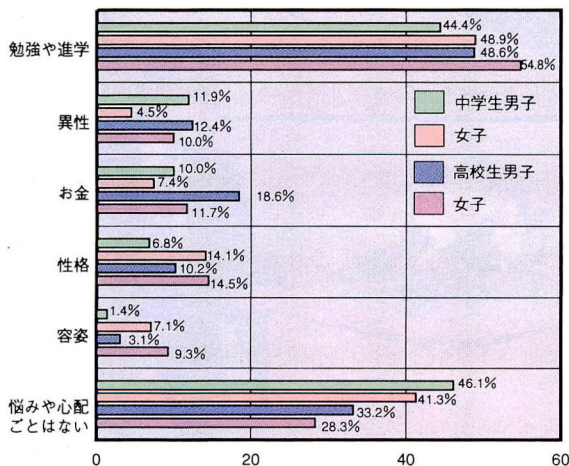
(対象：中学生～高校生 複数回答)

中学男子では「悩みや心配ごとはない」の回答が46%ともっとも多く、高校生では33%。「勉強や進学のこと」と回答した男子は中学生44%、高校生49%となっている。一方、女子では「勉強や進学のこと」がもっとも多く中学生で49%、高校生で55%。中学女子では「悩みや心配ごとはない」が41%と2番目に多く、高校生では28%となっている。

人の暮らし方 (対象：高校生)



悩みや心配ごと (対象：中学生～高校生)



生きがいを感じる時

(対象：高校生)

「友人や仲間といるとき」がもっとも多く男子64%、女子75%。「スポーツや趣味に打ち込んでいるとき」が男子60%、女子42%と2番目になっている。

社会を明るくする運動

『青少年を守るミニ集会』に参加しましょう

「社会を明るくする運動」はすべての人が、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。青少年非行の悪化の状況はここ小田原でも、安泰とはいえない状況です。こうした青少年の非行や健全育成の問題などを話し合うのが『青少年を守るミニ集会』です。今年も、すでに各地区において『青少年を守るミニ集会』が開催されています。開催の日程や場所については、青少年相談センターまでお問い合わせください。

青少年相談センター ☎23-1481

藤間 小田原では、いちはやく環境政策に取り組んでこられたようですが。

小澤 小田原にはおいしい水と空気があります。だからこそ、この美しい郷土を守るため環境問題に取り組んできました。平成5年度に「環境部」を創設して、平成7年は「環境元年」を宣言。ポイ捨て禁止条例をはじめ、環境諸条例を体系的な形で制定し、実効をあげる試みが先進的であると全国表彰も受賞しています。

藤間 国では、エコアップ作戦・低公害車のPR・フォーラムやシンポジウムなど行っています。でも残念ながら皆さんには雲の上の話になっているのが現状です。まだまだ環境問題を身近に感じていないからでしょうか。

小田原市では、低公害車普及促進研究会を設置し、電気自動車の普及など市民と一緒に取り組んでいるようですが。

小澤 現在市役所には、低公害車が6台ありますが、今年度中にハイブリッドの自動車とバスを導入する予定です。また、電気自動車の乗車体験ができるリース(貸し出し)制度もこの研究会から提案されたユニークな事業といえます。

おや? とさえおや? と思えば 興味を示す若者

藤間 リース制度や購入者に補助金を出したり電気自動車に力を入れているようですが、なぜ電気自動車なのでしょう。

小澤 環境啓発について「地球規模で考え、地域で活動する」という信念を持っています。

市長対談

全国的にも環境へのさまざまな先進的な取り組みが評価されている小田原市。

関東通商産業局資源エネルギー部長藤間健一さんをお迎えし、小澤市長が地方自治体の使命と今後など環境問題を通して地域への熱い想いを語った。

郷土の美しさを いかに守るか 地方自治体の能力が 今、試される



「おや?これは新しいぞ!、おもしろいぞ!」と若者も含め幅広い市民が興味を示し、技術革新の最先端を行くものが電気自動車であったのです。

子どもが変われば 地域が変わる

藤間 美しい郷土は子孫のためにもしっかりと受け継がなくてはならないものです。そのため明日を担う子供たちに考え方も受け継いでいかなければならないと考えます。子供

に対して積極的にメッセージを贈りたいとお考えですが、他の環境啓発活動はいかがですか。

小澤 フォーラムなどを開いています。省エネの大切さも年輩の方に理解をいただき実践していただいています。これからは、若者の興味を引くことがカギになると考えています。

小澤 尾瀬など美しい地域を視察して、感じたことを発表し合う「地球ファミリー環境議会」などの事業でもしっかりと環境教育を行っています。

他市に先駆けて「ポイ捨て禁止条例」を制定しましたが、これも「お父さん、ポイ捨てだめだよ!」と注意されたら親はドキッとすんでしよう。子供が変われば家庭が変わる。家庭が変われば地域が変わると思います。

新しいことを起こさない 何も生まれてこない

藤間 市民から「なぜこんなに多くのコスト（税金）を環境行政に費やさなければならぬのか」という意見はないのですか。

小澤 そのような意見もありますが、地域を創っていくときに、新しいことを起こさないとも生まれてこないと思います。行政はいままでと同じことをやるのではなく、過去を検証し、未来を見据えていかなければならぬ責務があると考えます。そこには行政の努力はもとより、都市づくりの考え方をしっかりと抱き、貴重な税金を費やす意義を明らかにしていかなければなりません。

藤間 今まで行政の体制として物事が起きてから対応するのが当たり前でした。これからは長期ビジョンを持って事前に対応していくことが行政に求められると思います。

環境政策で 地方自治体の能力が 決まる

小澤 地方分権社会を迎え都市間競争の時代といわれています。人類共通の環境問題では、



関東通商産業局資源エネルギー部長 藤間健一さん

それぞれの地方自治体の能力が試されるのではないのでしょうか。「小田原はさすがである」「小田原はやるな」といった声が聞かれるよう大いにPRしていきたいと思えます。

藤間 環境は今後、もっと大きな問題となるのは間違いないでしょう。必ずすべての住民が壁に当たります。いかにして行政も住民も問題意識をもっていくのか、それが大事だということなのです。

小澤 今の状況では産業振興と環境問題は、非常に難しいバランスなのかもしれません。安定した生活を「環境保護」という理由で制限や変革を強要し、ライフスタイルまで変えて良いのかと考えてしまうこともあります。それだけ慎重に、長期的に考えなければならぬ難しい問題なのです。

藤間 当面は今の生活を確保しながら、環境問題を解決しなければならぬと考えます。それには、一人ひとりの共通理解が必要になり、国・県・市町村そして住民のコミュニケーションの構築も必要となってくるでしょう。

小澤 ごみ分別収集に踏み切った昨年4月には、住民のライフスタイルを変えていただくというところで、私自身も含め、市民・行政とも大変な苦痛が伴いました。しかし、環境問題はだれもが加害者であり、被害者であると考えます。「ごみを出したい。でもお金は

一人の百歩と 百人の一步

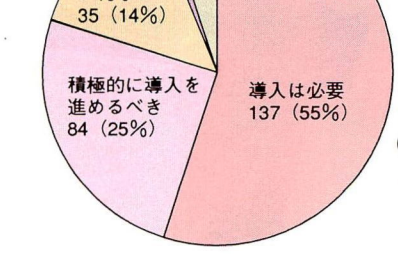
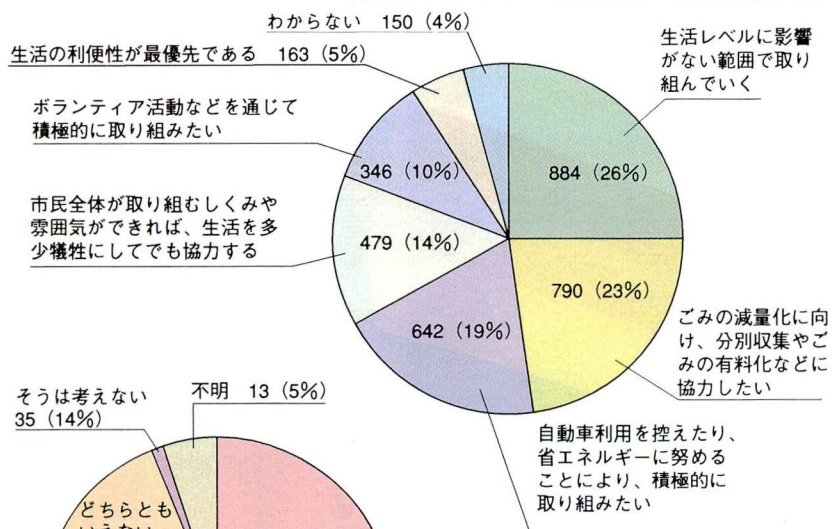
出したくない」。これでは社会は成り立っていかないのです。みんな意見や知恵を出し合いながら、理解を深めていきたいと考えています。

藤間 素晴らしいお考えだと思います。最後に環境政策に対する考えを聞かせてください。

小澤 環境政策は「一人の百歩と百人の一步」という言葉に表されると思います。住民の意識高揚を図るため先進的な旗を掲げる「一人の百歩」と皆さんの理解・協力で進める「百人の一步」の両輪が必要だと考えます。

小田原市民はこう考えている

小田原の環境を守っていくために、あなたはどのような取り組み方をしたいと思いますか
(平成9年のアンケート調査より 回答数3,454件)



低公害車について
(平成9年のアンケート調査より 回答数252件)



～小田原の明日への虹の架け橋

「交流」という新たな視点を取り入れて4月からスタートした小田原市総合計画「ビジョン21おだわら」。平成22年度までのこの長期計画の中で、平成16年度までの前期7年間に重点的に取り組む施策として取りまとめたのが「レインボープロジェクト」です。まちに活力を生む「交流の舞台づくり」をめざす、小田原の明日への虹の架け橋となるものです。ぜひ、知っておきたい7つの重点プロジェクトです。

図 企画政策課 ☎ 33-1305



地球市民・健康ふれあいの里

ふれあい農業公園や海辺などを整備して、自然の中で心身がリフレッシュできる場をつくります。

- ミルキーパークの整備
東部の丘陵地の豊かな自然の中に動物とふれあえる施設を整備します。
- グリーンツーリズムの整備
片浦地域の体験農園や農産物加工施設、直売施設など民間が進める交流施設の整備を援助します。
- 気軽に楽しめるウォーク大会の開催や、石垣山レストステーションの整備なども進めます。



生き生き産業・創造の泉

積極的な企業誘致の展開や産業コンベンションなどの開催により、活力あふれる産業が育つまちをつくります。

- 優良企業などの積極的な誘致
環境に配慮して工業団地を整備するとともに、優良企業などの誘致を積極的に進めます。
- 産業コンベンションの開催
全国的な産業コンベンションを開催して地場産業を活性化します。
- 産業立地を促すため、資金面での強化や中小企業診断士による経営改善なども進めます。



はつらつエンゼル・愛の環

子育てを楽しめるよう地域のみinnで支え、子どもたちがはつらつと育つまちをつくります。

- (仮称) 小田原子供のもり公園のオープン
自然の中で子どもたちがのびのびと遊べる公園が、いこいの森と辻村植物公園の間にオープンします。
- ファミリーサポートセンターの開設
会員同士が育児を相互に助け合い、仕事と育児の両立を支援します。
- 妊娠・出産・育児をめぐる父母の悩みを解消する各種相談事業や、子どもたちの豊かな心や郷土愛を育てる歴史・自然体験事業なども進めます。



—交流の舞台づくり—

レインボープロジェクト

まち 交流の都市おだわら・時の回廊

広域的な交流の拠点となる小田原駅や周辺市街地の再整備、城址公園エリアの整備などを進め、歴史・文化を生かした魅力ある回遊空間をつくります。

- 東西自由連絡通路を整備
広域交流拠点の核として、小田原駅の東西自由連絡通路や駅前広場の整備などをすすめる、まちの活力とにぎわいを生みだします。
- 小田原用水の復元
うらおいのある水辺をまちなかで楽しめる、昔ながらのせせらぎがよみがえります。
- お堀端通りの整備
小田原駅から小田原城、国道1号へと続くお堀端通りは、歴史的雰囲気が調和した整備を進め、まちのシンボルロードになります。
- 小田原城跡の整備や、歴史と文化の道づくりなども進めます。



こころきらめく文化・芸術の森

小田原の風土や伝統、さまざまな文化活動を大切にして、個性豊かな文化が花開くまちをつくります。

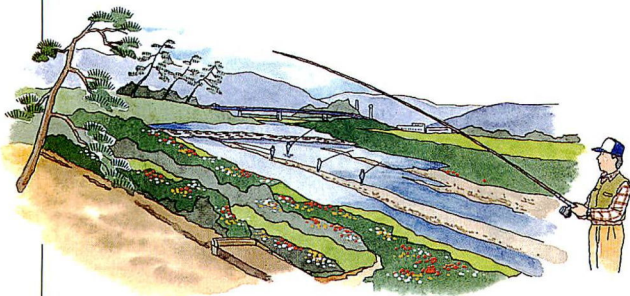
- 城下町ホールの建設準備
三の丸地区に文化の拠点として、(仮称)城下町ホールを建設するため、地質調査や用地取得など建設準備に着手します。
- 白秋童謡館オープン
今年の10月には小田原文学館別館を、(仮称)白秋童謡館としてリニューアルオープンします。小田原城址周辺の回遊ルートの広がりが期待されます。
- 文学の道づくりや、在日各国大使館関係者と交流する「小さな世界会議」の開催なども進めます。



水とみどりのエコトピア

酒匂川的环境保全やせせらぎの整備など、ふるさとの水辺とみどりの再生に取り組みながら、豊かな自然環境を守り育てるまちをつくります。

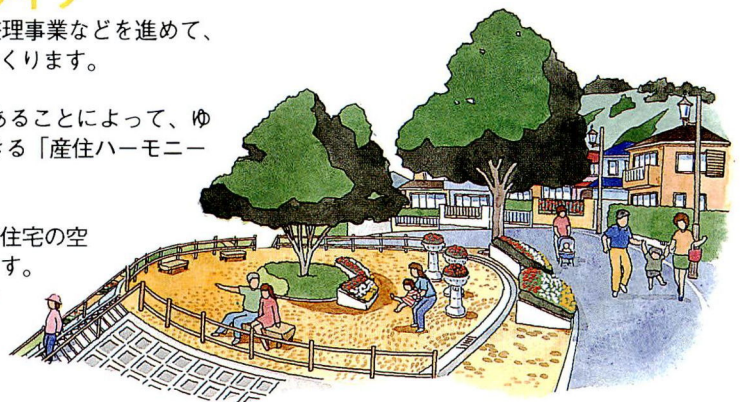
- 酒匂川の保全
県市町境を越えた広域的なネットワークで酒匂川的环境を守ります。ふるさとの偉人・二宮尊徳ゆかりの黒松並木を守ります。
- 低公害車の推進
低公害車をもっと利用されるように、ZEVRA(低公害車実現行動)プランを進めて大気環境を守ります。
- ごみの分別収集を徹底して資源循環型社会を進めるほか、植物や昆虫が生息する雑木林の保全なども進めます。



ゆったり宅地・快適ライフ

市街化区域内農地の宅地化や区画整理事業などを進めて、ゆとりある小田原らしい住環境をつくります。

- 「職」「住」の接近
「職場」の近くに「住まい」があることによって、ゆとりある生活を送ることができる「産住ハーモニータウン整備構想」を進めます。
- 住宅情報の提供
市内の区画整理事業の状況や市営住宅の空き情報などの住宅情報を提供します。
- まちなかに点在する農地を有効に活用し、良好な住環境と安らぎのある宅地供給も進めます。



小田原 けいのん

レジャーで楽しもう、
競輪

競輪

23億円。平成8年度の競輪事業の売上金の中から、一般会計に繰り入れられて、まちづくり等に充てられた金額です。これは、昨年12月にオープンした栄町駐車場の建設費に相当する額になります。最盛期の昭和40年代には、競輪事業から繰り入れられる金額が一般会計の27パーセントにも上る時期がありました。競輪というと、そのギャンブル性からどうしても敬遠しがちですが、実は小田原のまちづくりに大きく貢献しているのです。

競馬は大きなブームを迎え、たくさんの方ファンを獲得しました。そのカギはレジャー感覚にあったようです。ギャンブルからレジャーへ。新しいファン獲得のため、競輪も大きな転換点にあります。

8月に小田原競輪で開催される記念競輪は、S級のスター選手がそろってビッグレース。数々のプレゼントを用意して、皆さまのご来場をお待ちしております。最近では電話投票による売り上げが伸びていますが、競輪の迫力はやはり金網越しが一番。ぜひ、足をお運びください。

岡事業課 ☎ 231101

開設49周年 記念競輪

前節 8月9日(日)～11日(火)
後節 14日(金)～16日(日)

ファンサービス

スピードくじ

毎日先着8,000人にスピードくじ。

抽選で毎日1,012人に景品をプレゼント

- ★ラッキー賞 小田原名産梅干し(5kg) …… 2本
- ★1等 男性用札入れ・ベルトセット …… 30本
- ★2等 高木隆弘サイン入りバスタオル …… 30本
- ★3等 テレフォンカード2枚組セット …… 150本
- ★4等 テレフォンカード1枚 …… 800本
- ★11日(火)・16日(日)の決勝日にはS級決勝出場選手
のサイン入りTシャツ …… 各日27本

一先着プレゼント(毎日)

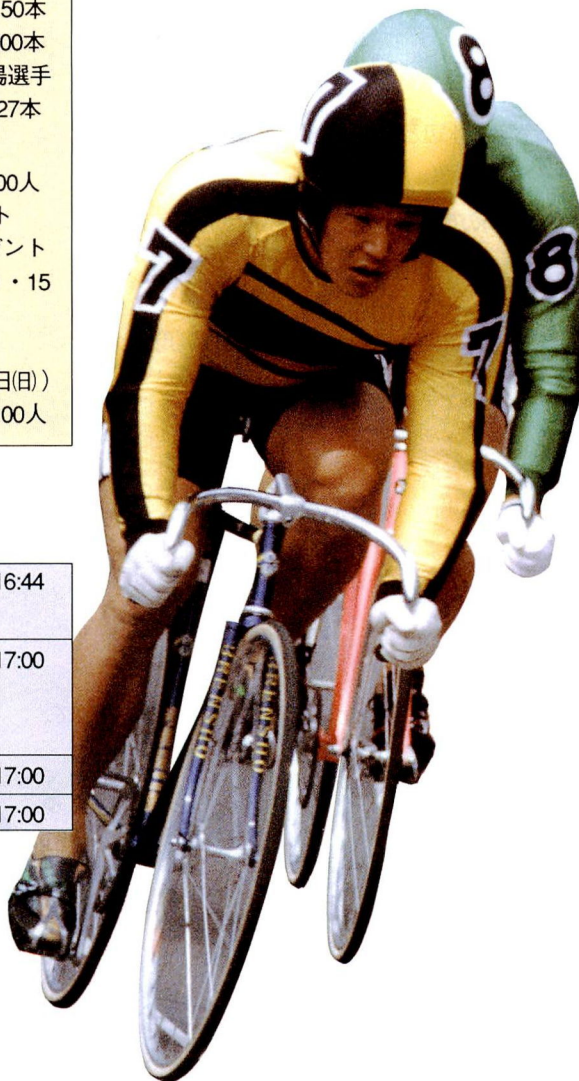
- ハンカチタオル …… 8,000人
- パナソニック・コットンハンガー・キッチンセット
…… 女性の方300人に日替わりプレゼント
- うちわ…8,000人(9日(日)・10日(月)・14日(金)・15日(土))
- 寄木スプーンフォークセット
…… 8,000人(11日(火)・16日(日))
- 花火セット…お子様用100人

テレビ実況中継

TVKテレビ	15:00～16:44
(15日除く) 16日は16:35まで	
スカイパーフェクトTV	10:30～17:00
9日～11日・16日	385ch
14・15日	386ch
ディレクTV	806ch 10:30～17:00
小田原ケーブルテレビ	45ch 10:30～17:00

主な出場選手

- 高木隆弘 (地元期待の星)
- 神山雄一郎 (’97賞金王)
- 高橋武 (地元有望選手)
- 金古将人 (48周年後節優勝者)



FAX情報サービス

162-#284-0465-23-6499-01 #～07 #
02 出走表 (前夜版)
03 出走表 (当日版)
06 成績
※NTTとのFネット契約が必要です。

テレフォンサービス

開催案内・レース結果
0180-994-133
※携帯電話・PHSは利用できません。

電話投票競輪場番号 36#

早朝前売り発売

開催期間中の午前7時30分～
正面入場門前横

レース発走時間

午前11時 (11レース制)

窓口をもっと親しみやすく

戸籍住民課では、「あなたの声が窓口を変えます！」をテーマに、昨年8月から支所・連絡所・窓口コーナーのカウンターにアンケート用紙を置き、皆さんのご意見をいただいています。

ご意見が窓口を変えました

戸籍についての知識がないので、相続をするときに必要な書類が分からず、大変困った。戸籍のことについて勉強できる方法を考えてほしい。

戸籍は皆さんに関係することですから、知識を持つことは大切です。そこで、「小田原市生涯学習きらめき出前講座」のメニューに『戸籍の仕組みについて』私たちの生活と戸籍』というテーマを追加しました。

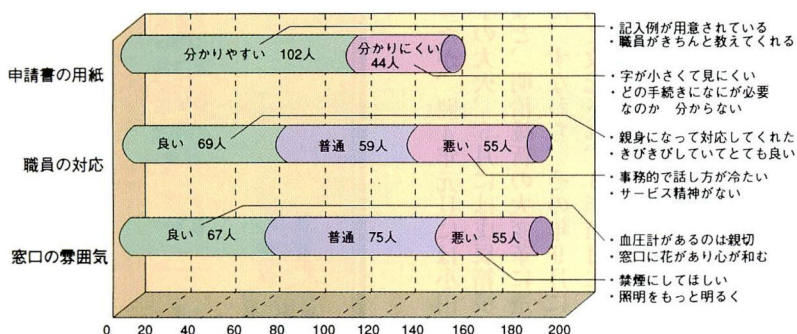
このメニューは、9月から始まります。少人数からでも申し込めますので、ぜひご利用ください。

印鑑証明書などの申請書の字が小さくて読みにくい。

窓口で用意させていただいている印鑑証明書や住民票などの申請用紙を少し大きくしました。字も見やすいような字体に変え、サイズも大きくしています。また、申請書の中に同じことを繰り返し書くことがないように、内容も見直しました。

このほか、すでに260通以上

アンケート中間報告 (平成10年5月31日分まで)



のご意見が寄せられています。皆さんの声によって改善されたことをまとめて各支所などに掲示していますので、窓口にお越しの際は、ぜひご覧ください。

小田原市は、情熱新市役所宣言をし、市民の皆さんと共に歩むこ

とのできる職員の育成を目指して、一生懸命取り組んでいます。かけがえのないパートナーである皆さんと共に、これからも頑張っていきますので、お気づきの点について声を聞かせてください。

● 戸籍住民課 ☎ 331381

転出・転入届の際のお願い

最近、本人が知らない間に住民票が異動されるという事件が新聞などで報道され、市民の皆さんもご心配のことと思います。

転出・転入、転居届などを受ける際に、窓口で身分証明書などを提示していただくことがあります。これは、市民の皆さんの大切な個人情報を守るためですので、ご理解とご協力をお願いいたします。

「おだわらの風」ってどんな風？

広報レポーター 栗原広子

女性の視点から切り込んだ社会問題の特集や素敵なエッセー、さまざまな情報提供と、充実した内容の女性情報紙「おだわらの風」は、今までに17号発行されている。今回、新しく編集員になった浅池さん、小松さん、對木さんにお会いして話を伺った。

編集員の任期は2年、発行は年に2回（9月と2月・新聞折り込みで配布）のため、この先4回の作成に携わる。月2回開かれる企画会議でディスカッションを重ね、取材先の掘り起こしから編集・発行まで女性行政課と共同で行う。

皆さんに「おだわらの風」に対する思いを伺うと、「女性問題はとても関心があるテーマ。世の中に小さな一石を投じることができると期待しています。変えようとしなくちゃ、何も変わりませんよね。」と浅池さん。「ちょうど打ち込める



左から小松泉さん、浅池慶子さん、對木敦子さん。

ものを探していたときでした。自分の考えを大切にしながら行動を起こして、固定観念を打ち破るような風を目指します。」と小松さん。「女性として身近な問題を考え、活動したかったんです。大きな風は起こせなくても、男女どちらにもそっと意識改革を起こせるような、そよ風になれば。」と對木さん。そして、「テーマを全員で決め、実際に取材もしましたが、不安と期待、苦労と楽しみが入り交じっています。4回の発行で、自分も一緒に成長できるかな。」と口々に笑顔で語ってくれました。

ほかに2人の編集員がいて、5人でこれから協力して作っていくそうだが、和気あいあいでも息もびったりという楽しいような編集風景が想像できる。5人の個性が光ったら、さぞかし魅力的だろう。

家庭や地域などさまざまな場所から太陽のように輝いている女性たちがとても楽しみである。

● 女性行政課 ☎ 331725

歴史街道 小田原を愛した人々⑬
郷土歴史家 三津木國輝

町の発展と郷土史研究に一生を捧げた

片岡永左衛門

小田原の郷土史研究に生涯をかけた、その研究成果を「明治小田原町誌」「小田原大秘録」「駅舎餘音」などをはじめ、数多くの著書を残して、小田原の郷土史研究の基礎づくりをなした人が片岡永左衛門である。

片岡永左衛門は万延元年（1860）1月26日、小田原宿本陣片岡正親・ツマの長男として生まれた。幼名は大藏。慶応3年（1867）2月15日、わずか8歳で家督相続し本陣の主

となつたが、翌4年元旦には小田原城下の大火、5月には戊辰箱根戦争など、明治維新の大変革に遭遇した。すなわち、その年9月には明治と改元され、3年11月には小田原城下が廃城となつて取りこわされた。さらに閏10月には本陣が廃止となり、続いて5年8月には宿駅制度が廃止されるなど、小田原宿は大混乱の状態であつた。少年期はこのような社会状況不安であつたが、儒者中垣謙齋秀實について学び、後に吉岡信之、福

住正兄、小西正蔭など、多くの人々と親交を得て学んでいった。

明治20年（1887）4月、町会議員（小田原幸町外四ヶ町）の改選が行われ、28歳の若さで町会議員に選ばれた。明治22年5月2日、町村制施行に伴つて行われた小田原町会議員選挙にも選ばれた（明治20年12月まで）。

明治33年（1900）3月30日、小田原町助役に選ばれ、明治38年7月28日その職を辞するまで今井廣之助、吉田義方、加藤定通と3代の町長を補佐して町政に尽くした。その間明治35年5月15日から36年2月10日まで小田原町長代理助役をつとめ、35年9月の小田原大海嘯の大災害に当たつては、被災者の救済と町の復興に努力して多大の成果を挙げた。

とくに長年の懸案であつた防波堤築造について県に請願するとともに、築造委員会を発足し、自ら委員長として奔走し、県費補助事業として工事に着手、大正2年（1913）8月15日、強固な防波堤が完成した。

片岡永左衛門は教育文化の面に

も力を注ぎ、小田原教育会の初代会長に就任したのをはじめとして、足柄下郡教育会評議員などをつとめ、女子教育の必要性を提唱し、町立高等女学校（現・城内高校）設立に尽力した。また昭和初年の小田原城お堀埋立問題では、調停委員として現在に残る城堀の保存に努力した。

郷土史研究では冒頭に記したように、小田原郷土史の基礎づくりをされた人で、小田原宿本陣の自家資料及び当時町方に残された豊富な資料と幕末からの体験を基に、その研究成果を数多く発表された。これらの著書は、後に続く研究者の良き資料となっているが、その中でも「明治小田原町誌」は高く

評価されており、石井富之助元市立図書館長は「もしこれがなかったら小田原の明治のことはまるでわからなくなつていたのであろう」と述べている。またその知識は長谷川英麿、中野敬次郎、石井富之助など、多くの研究者に引き継がれた。

「かきつゝ、る世々の姿をいついかに誰かたとらん古き葉と」

永左右衛門

昭和12年11月20日、片岡永左衛門のすべての所蔵資料が小田原町立図書館に寄贈され、「片岡文書」として保存されている。昭和18年（1943）12月18日、東京都杉並区高円寺で84歳の天寿を全うした。



片岡本陣跡（明治天皇行在所 現オリオン座横）



木に憑かれる 気になる人たち②

このコーナーは、小田原の「木」に関する地域文化を見直し、発見・発展させるため活動している「木の文化工房実行委員会」が「木」と関わる素敵な人たちの思いを紹介します。



木 霊

木々その声を聞く

春光院 石川邦雄

風や鳥が運んできた木の実が芽を出したの
であろうか、境内の片隅に、松、楓、樟、樺
などの赤ちゃんを時々見かける。そのままに
しておくと、知らぬ間に背が伸び、その場そ
の空間にそれなりの存在感を漂わせはじめ、
いつしか大木の体をなすものもある。春光院
の庭木には、そんな経歴の持ち主が何人もい
る。

木をつかまえて「何人」というのは変に思
う人がいるかもしれないが、どんな樹木でも
一度存在感を発揮しはじめると、軽々しく扱
うのははばかれるようになる。人でいえば
人格というようなものが感じられてくるのだ。
まして樹齢百年、千年単位の木ともなれば、
なおさらのことである。＜木霊＞という言葉
があるように、木にも“たましい”が宿るに
違いない。九州の南海に浮かぶ屋久島に、樹
齢7千年といわれる縄文杉を訪ねたことがあ
るが、その威厳、威圧感たるや言葉をはるか
に超えたものがあり、杉の巨木の足元でただ
ただ頭が下がる思いにひたったものである。

ところで最近、人が大勢住む街中の樹木の
影が薄いように思われる。樹木が人間の奴隷
化したような、卑屈な表情さえ見せているの
である。それもそのはずで、家並みが密集し、
近隣から落ち葉の苦情が殺到して大木が泣く
泣く切り倒される。家主が自分の庭に木を勝
手に植えておきながら、木が成長して日が当
たらなくなったと言ってバツサリ切る。木も
たまったものではない。少しは木の言い分を
聞いてあげたらどうだろう。

10年前、春光院前を通る県道が歩道をつく
るため拡幅された。たまたま計画路線上に樹
齢百年の銀杏の木が立っていたが、歩道をち
よっと迂回させることでこの木は生命をなが
らえた。今、その銀杏の木は、歩道を行き交
う人々に、夏は木陰を作り、冬は木枯らしを
さえぎり、日々無言の言葉を送り続けている。

身近にたたく木々のささやきにふと足を
止めて耳を傾ける、そんな心のゆとりが地球
の環境問題を考える一歩なのかもしれない。



海中散歩のススメ

今、はやりのマリンスポーツ。その中でも
勝ち負けなく、誰でも楽しめるものと言えば
コレ、そうスキューバダイビング。青い海、
澄んだ空、色とりどりの魚たち。圧縮空気
の入ったタンクを背負ってドボンと行けば、気
分はもう浦島太郎。あなただけの天然水族館
が広がります。テレビでよく見るあたり一面
のマリンブルー、イルカやウミガメと一緒に
泳ぐスキューバダイビングは、そんな神秘的
な世界を体験させてくれるのです。

「スキューバって、事故多いみたいだし、
難しそうなんでいや〜ちょっと…」とお思い
の方もいるかもしれませんが、謙虚に無理せ
ずあせらずに、基本をしっかりマスターすれ
ばOKなのです！

さて、始めたいけどどうしたらいいかしら
と迷っているあなた。まずは、ショップ選
びから。ダイビングショップや、スイミングプ
ールなどで、体験ダイビングや認定証取得
(いわゆるCカード、これがないと潜れない)、
ダイビングツアーまで、いろいろなプランが
ある市内にいくつかあるショップで相談して
みてください。

体験ダイビングは1回2ダイブ・器材す
べてレンタルで1万3千円程度、スク
ールでのCカード取得は、6回程度のプ
ール実習・学科講習・1日2ダイブの海洋
実習、器材全てレンタルで8万円程度

*認定団体により多少の違い有

こんな器材が必要

(☆は購入価格、○はレンタル価格) ショップ
により多少の差があります。

自前でそろえた方がよいもの

フィン(足ひれ)、ブーツ、シュノーケル、
マスク(度付きレンズあり)、グローブ

☆23,000円、○2,500円

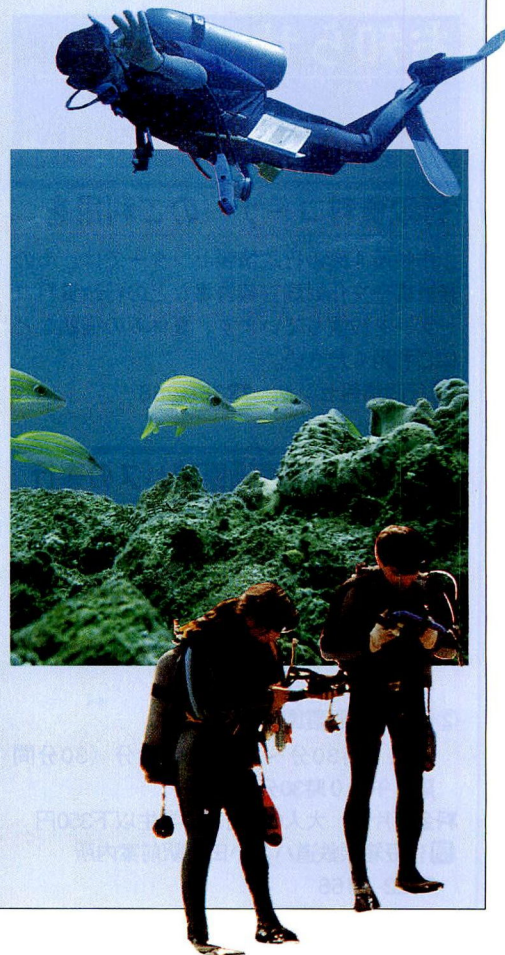
その他必要な器材

ウェイト、ウェットスーツ、BCジャケット
・レギュレーター☆280,000円○6,500円

個人で潜るときは、2ダイブ分のタンクレ
ンタル・ガイド料などで上記器材のほかに、
11,000円ほど必要です。

小田原おすすめポイント

ちまたでは、CD2枚で首都圏から来られ
ると雑誌などでも取り上げられている小田原。
早川、米神、根府川、江之浦とビギナーから
楽しめるポイントに恵まれ、アジやマダイは
もちろん、イザリウオ、タツノオトシゴ、ク
マノミまで見られます。ただし、おいしそ
うだからといって魚介類を捕っちゃいけません。
また、海の中でごみに出会うと悲しい気持ち
になりますから、海でも陸でもゴミ捨てはや
めましょう。いつまでもキレイな海に潜っ
ていきたいですね。(文・ルミちゃん)



税金・補助

納税、年金、各種手当について

今月の納税

個人 市民税・県民税 第2期分

納期限は、8月31日(月)です。口座振替払の方は、預貯金残高の確認をお願いします。

☎市民税課 33-1351

8月15日には黙とうを

8月15日(土)は、戦没者を追悼し、平和を祈念する日です。市民の皆さんには、当日の正午を合図に1分間の黙とうを捧げられますようお願いいたします。

☎福祉総務課 33-1861

市立図書館の公開図書が増えました

市立図書館では、3階の公開書架室を広げ、書架を増設しました。手に取って見られる公開図書が、8,300冊増え、今までの11,500冊から19,800冊になりました。

調べものや、読みたい本が決まらない時など、ご利用ください。

☎市立図書館 24-1056



日赤社員増強運動の結果

平成10年度は、総額24,227,101円の社資を集めることができました。お寄せいただいた社資は、災害救護活動、献血事業、医療事業などに使います。

☎福祉総務課 33-1863

食中毒を防ごう

この時期は体調も崩れやすく、食中毒も多発します。次のことに注意しましょう。

○いつもきれいに

・まな板、フキン、調理器具はよく洗って消毒。

・手洗いの励行

○温度管理をしっかり

・焼く、煮るなどの加熱を十分に

・5度前後で冷蔵保存

○すぐに食べる

・調理は手際よく

・調理した物は早めに食べる

☎小田原保健福祉事務所 22-3135

高齢福祉年金を受けた方は 国民年金証書の提出を

87歳以上で、高齢福祉年金を年3回郵便局で受けている方は、8月11日から支給される8月期の支払いを郵便局で受けてから、国民年金証書(緑色の手帳)を市役所へ提出してください。

提出方法 市役所からお送りした回収用封筒に「国民年金証書」と「預り証の控え」を一緒に入れて8月31日(月)までに郵送して

ください。

提出を忘れて、遅れたりすると、年金の支払いが受けられなくなる場合がありますのでご注意ください。

*提出された国民年金証書は、10月中旬に簡易書留でお送りします。

☎保険年金課 33-1869

市民プラザ

日本舞踊教室

日時 毎月第1・3・4水曜日午後1時～5時

場所 梅の里センター

費用 月額3,000円

申込 花月寿扇・長山 ☎72-1864

ご存じですか?

8月は道路をまもる月間

8月10日(月)は「道の日」

8月8日(土)午後5時から小田原花火大会会場周辺で、「道の日」キャンペーンを行います。

見過ごされがちな道路の大切な役割について、考えてみませんか。

☎建設総務課 33-1541

災害弱者所在マップ意向調査にご協力を

阪神・淡路大震災を教訓に、災害発生直後の安否確認や避難誘導などに役立てるため、高齢者や障害者など「災害弱者」を表示した所在マップを作成します。8月中旬に市職員もしくは民生委員・児童委員が伺います。意向調査に同意された方だけを表示し、個人のプライバシーには十分配慮しますので、ご協力をお願いします。母子世帯などで掲載を希望される方は、担当の民生委員・児童委員にお申し出ください。

☎福祉総務課 33-1861

花便り ～挿し木で増やす～

インパチェンス、ポーチュラカ、ペコニア、バーベナなどは、挿し木で増やせます。枝先を川砂や鹿沼土などに挿して、十分水やりをして、明るい日陰の涼しい場所に置くと、1週間～10日で根が出ます。

草花の即売会 9日(日)・23日(日)に開催

☎フラワーガーデン 34-2814

お知らせ

市・官公庁からのお知らせ

行政資料コーナーのご利用を

市役所4階の行政情報センターでは、市の統計書や文化財調査報告書などの行政資料コーナーを設置しています。夏休みの宿題などにご利用ください。

☎行政情報センター 33-1288

久野霊園行き直通臨時バスの運行

お盆の時期に合わせて久野霊園への直通臨時バスが運行されます。

日時 8月13日(木)

①行き(小田原駅西口発)

午前9時～午後3時(30分間隔・正午は運休)

②帰り(久野霊園発)

午前9時30分～午後3時30分(30分間隔・午後0時30分は運休)

料金(片道)大人600円、小学生以下350円

☎伊豆箱根鉄道バス小田原駅前案内所

☎22-3166

募集

Mokuture
あなたのウッドクラフト展



あなたのアイデアが製品になります。
使いたい・持っていたい・作ってみたいと思ふ木製品のアイデアをスケッチと説明文で表現してください。

アイデアは、選考で20~30の作品にしぼられ、入選者と打ち合わせのうえ、作り手が技術を尽くして製作します。できあがった作品の中から大賞ほか各賞を選び、Mokuture—あなたのウッドクラフト展で発表します。

応募対象 小・中・高・専門学校・大学生
応募作品 皿、コップ、調味料入れなどの食卓用品部門とその他の一般部門

応募方法 9月10日(木)までに所定の応募用紙に必要事項を書いて。

申込 〒250-0014 小田原市城内1-21 箱根物産連合会事務局 ☎22-4896

優秀な技能をお持ちの方を
推薦してください

市では、技能功労者、優秀技能者、青年優秀技能者を表彰しています。

今年は、11月18日(水)に表彰式を予定しています。

対象 市内に住み、市内で職業についている

- 方。勤務先が大企業の方は除きます。
- 技能功労者(10人以内)
同一の職種に30年以上ついている55歳以上の方で、功績が顕著である方
- 優秀技能者(10人以内)
同一の職種に20年以上ついている40歳以上の方で、優秀な技術を持ち、他の模範となる方
- 青年優秀技能者(5人以内)
同一の職種に10年以上ついている40歳未満の方で、優秀な技能を持ち、将来を期待される方

推薦方法 8月17日(月)までに、各種職業団体や職種の代表の方などが、市役所4階の商工課に、所定の推薦書で推薦してください。

問 商工課 ☎33-1513

外国籍県民かながわ会議委員
NGOかながわ国際協力会議委員

○外国籍県民かながわ会議委員
内容 外国籍県民に関する施策を日本語で協議し知事に提言(通訳同行可)

日程 年4回、1回2日・2時間程度

対象 4月1日現在で満18歳以上の外国人登録された方で、過去1年以上及び任期中の県内在住、在勤、在学が予定されている方(難民の方は日本国籍を取得された方でも応募できます。)・20名(任期2年)

応募方法 氏名、住所、電話番号、勤務・通学先の名称、住所、生年月日、年齢、性別、国籍、在留資格、在日年数、応募理由などを、本人が日本語で記載し提出

○NGOかながわ国際協力会議委員
内容 県の国際政策などに関する施策を協議し知事に提言

日程 年2回、1回2日・2時間程度

対象 国際政策分野で非営利の公益活動を行っている県内団体に所属し、団体の推薦を受けた方・10人(任期2年)

応募方法 推薦理由、団体の概要・活動分野などが書かれた所属団体の推薦書と、氏名、生年月日、年齢、性別、所属NGOの名称、

役職、活動実績、応募理由などを記載し提出

*共通事項

選考方法 選考委員会で選考の上、11月上旬にご本人に文書で通知。(所定の応募様式ご希望の方は電話で、)

申込 9月11日(金)までに(必着)

〒231-8588 神奈川県庁渉外総務室

☎045-201-1111 ☎045-212-2753

「箱根」・「湯河原・真鶴」
の史跡巡り

県西地域広域市町村圏協議会では、箱根方面と湯河原・真鶴方面のバスツアーを開催します。身近な史跡を見直し、新しい発見をしてみませんか。

日時 9月4日(金)午前8時40分出発~午後4時

①箱根の地獄巡り 白石地藏(湯本)、大地獄延命地藏(大涌谷)ほか

②湯河原・真鶴の史跡を訪ねて 城願寺(湯河原)、真鶴しとどのいわや、ほか

対象 ①②とも小田原市、南足柄市、足柄上・下郡にお住まいの方

定員 各40人・抽選

参加料 3,000円(昼食代含む)

申込 8月14日(金)までに、生涯学習課☎33-1712

みんな集まれシンドバッド
卒業生大集合!

「少年少女オーシャンクルーズ・きらめきシンドバッド」が8月23日~25日の2泊3日で行われます。8月23日(日)の午後2時ごろに、にっぽん丸が小田原に接近します。シンドバッドの卒業生のみなさんの熱い声援を送りましょう。

○海上見送り計画
漁船に乗船して、海からエールを送ります。50人・先着順

○陸上見送り計画
御幸の浜で、陸から旗などでエールを送ります。

申込 8月19日(水)までに、青少年課☎33-1723

酒匂川をテーマにした写真

豊かな恵みと地域の発展を支えてくれた「母なる川・酒匂川」をテーマにした写真を募集します。

応募期間 9月11日(金)まで(消印有効)

応募方法 サービス版以上のプリントを直接または郵送で。

賞は設けませんが、優秀な作品は引き伸ばして、市役所市民ロビーに展示。その後パネル化した作品を差し上げます。(写真の返還は不可)応募者全員に記念品を贈ります。

申込 環境保全課 ☎33-1484

しょうぶ
雨に彩られた菖蒲の花

今年も「花と緑の広場」が開かれました。いつもは10月に上府中公園で行われていたこのイベント。今年は6月13・14日にフラワーガーデンで行われました。

しとしとと降る雨の中、梅林の溪流には、故丸山誠吾さんが20年にわたって育ててきた「丸山菖蒲園」の菖蒲が、見事な花を咲かせていました。このイベントを6月にしたのも、この菖蒲を皆さんに見ていただきたい、との思いから。

晴れた日に太陽の日差しを浴びた花も綺麗ですが、梅雨空に、花一杯に雨のしずくを溜めた姿も艶やかでした。



小田原動物園特別展

動物たちの写真や資料を多数展示
 日時 8月25日(火)～31日(月)午前9時～午後4時
 場所 小田原城址公園常盤木門
 観覧料 ☎23-1373

スポーツ

各種スポーツ大会、講習会など

西湘地区体育センターの催し

- スポーツ研修セミナー「体力づくり体操指導の実際」
 日時 9月2日(水)・9日(水)午前9時30分～午後3時30分
 対象 スポーツリーダーまたは目指す方・30人・多数抽選
 申込期間 8月23日(日)までに、来所または電話で
- フィットネス教室
 日時 9月11日～11月20日の毎週金曜日 午後1時30分～3時30分
 対象 16歳以上・90人・多数抽選
 受講料 1,730円
 申込日時 9月4日(金)午後1時30分直接
- バトミントン教室
 日時 9月12日～12月5日までの毎週土曜日 (10月10日、24日、11月21日を除く) 午後1時30分～3時30分
 対象 16歳以上・30人・多数抽選
 受講料 1,730円
 申込日時 9月5日(土)午後1時30分直接
- スポーツ医事・体力相談
 日時 9月5日(土)午後2時～4時
 内容 負荷心電図検査などによるスポーツ適性診断
 定員 5人・先着順
- トレーニング室利用講習会
 日時 9月13日(日)午後2時～3時30分
 対象 16歳以上・30人・先着順
 応募方法 来所または電話で、
 申込 西湘地区体育センター ☎48-2650

少年水泳大会参加者募集

- 日時 8月23日(日)午前8時30分受付
 場所 御幸の浜プール
 種目 男女とも3・4年生の部と5・6年生の部
- ①自由形＝50m・100m・200m (200mは5・6年生のみ)
 - ②平泳ぎ＝50m・100m
 - ③背泳ぎ＝50m・100m
 - ④バタフライ＝50m・100m
 - ⑤個人メドレー＝200m (バタフライ・背泳ぎ・平泳ぎ・自由形各泳法とも50m)
 - ⑥200mリレー (50m×4人)

- ⑦200mメドレーリレー＝200m (背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ・自由形の順50m×4人)
 対象 市内の小学校3年生～6年生(リレーを除き1人2種目以内)
 参加料 500円(傷害保険料を含む)
 申込 8月10日(月)まで、体育協会(城山陸上競技場内) ☎24-0343

こども

児童対象の行事など

きみも今日からカメラマン！ 家族で楽しむ写真教室

日時 8月21日(金)午前9時30分～正午
 場所 県足柄上合同庁舎
 内容 写真の撮り方の講義の後で、実際に酒匂川へ行って写真を撮ります。
 講師 山下勲さん(プロカメラマン、日本写真協会会員)
 対象 小中学生・50人(家族での参加歓迎)
 要事前申込
 申込 環境保全課 ☎33-1484

にんぎょうげきフェスティバル

アマチュア人形劇団「ポッケ」ほかによる、たのしいにんぎょうげきです。
 日時 8月16日(日)午前10時30分～正午(開場は10時)
 場所 かもめ図書館
 定員 180人
 申込 市立図書館 ☎24-1057

講座・教室

講演会・展示・発表

女性カレッジ

市の審議会やPTA、地域など、さまざまな

場面でリーダーとして活躍する女性の人材を育成するため、女性カレッジを開きます。今年あなたはステップアップ。

日時 9月10日～11月12日の毎週木曜日(全10回) 午後1時30分～4時30分
 場所 小田原市役所

主な内容

市の財政事情・議会のしくみ、社会の実態と課題、自分の意見を適確に表現する技術
 対象 市内在住、在勤、在学の女性で全日程出席できる方

定員 30人・抽選

託児 2歳以上就学前まで。(予約制)

応募方法 8月28日(金)(消印有効)までに、住所、氏名、年齢、電話番号、応募の動機を書いて郵送。

申込 〒250-8555 女性行政課 ☎33-1725

録音ボランティア 養成基礎講座

日時 9月8日～12月1日の火曜日(9月15日・11月3日は休み) 午前10時～正午(全10回)
 場所 社会福祉センター(車での来場不可)
 対象 市内に在住・在勤で、講座終了後録音ボランティアとして活動できる方・20人・先着順
 申込 8月10日(月)から、社会福祉協議会 ☎35-4000

募集

人員、作品、参加者の募集など

七沢ライトホーム1日体験入所

1日入所による施設見学・生活訓練体験
 日時 8月29日(土)午前10時15分～午後4時
 場所 神奈川県総合リハビリテーションセンター七沢ライトホーム(厚木市)
 対象 16歳以上の視覚障害者と家族・15組
 申込 8月3日(月)から、七沢ライトホーム ☎0462-49-2403

梅ジャムづくり教室はご夫婦に人気

ジャムづくりは静かなブームだそうです。自分でとった果物を材料にする自家製のジャムの味は、また格別なもの。6月21日(日)に梅の里センターで開かれた「梅ジャムづくり教室」には、若い世代からシルバー世代までご夫婦を中心に、38人の方が参加しました。写真の細川さんご夫妻は、2月の梅まつりで食べた梅ジャムが忘れられず、我が家でも横浜から参加しました。ご近所にも、自家製梅ジャムを配りたいと楽しそうに話していました。しばらくすると、横浜あたりで梅ジャムがブームになっているかもしれません。



小田原
彩時記

イベント

各種催しものなど

ODAWARA子どもサミット ふれあいのある楽しい学校、仲間づくり

「学校で、どんな場面でどのように仲間づくりを進めていくか」について、市立各中学校の代表生徒が集まって討論し、共同宣言を採択します。今年は、パネルディスカッションによる討論を取り入れます。

日時 8月28日(金)午後1時30分

場所 小田原アリーナ

☎ 学校教育課 ☎33-1684

昼のミニコンサート

市民演奏家の皆さんが、気軽に演奏する10分間の小さな演奏会です。月1回開きます。

日時 8月19日(水)午後0時30分～40分

場所 市役所2階談話ロビー

演奏 ピアノ 長田きみさん

演奏曲 あこがれ・愛 (ジョージ・ウイントン) 異国の女たち (日向敏文)

演奏者 (ボランティア) 募集中!

ピアノソロまたはピアノ演奏を含む少人数編成の市民演奏家の皆さん、市役所にお越しの皆さんに安らぎと潤いに満ちたお昼のひと

今回の表紙

関東大震災の2年後、まちの再興に夢を馳せつくれた小田原競馬場。表紙の一枚写真からも震災復興にかける意気込みと競馬に熱中する人々の熱気が伝わってくるようです。2年目の大正15年5月には、開催日3日目に6万人の見物客を記録。当時の小田原町の人口が2万5千人あまりですから、その人気の高さがうかがえます。

小田原競馬場を特集した「おだわら百科事典」は小田原の知られざる歴史を掘り起こし、お伝えするコーナー。これまで、「浮世絵に描かれた小田原を『読む』」(平成9年8月号)、「幻の小田原ホテル」(同年12月号)を特集してきました。

あらためて知る小田原の奥深い魅力。これからもお届けします。お楽しみに

ときをプレゼントしませんか?

☎ 市民交流課 ☎33-1706

みんなの消費生活展

子供を取り巻く生活環境や消費生活について親子で楽しく考えてみましょう。

日時 8月22日(土)～23日(日)午前10時～午後5時

場所 マロニエ

○消費生活講座

①「環境ホルモンとは何か～人類をおびやかす化学物質」講師：日本大学教授 片瀬隆雄さん (22日午後2時～4時)

②「ガーデニングを楽しもう～生活にゆとりを」講師：グリーンアドバイザー 松本公子さん (23日午前10時～正午)

*消費生活講座は事前に電話予約必要 (①は60人、②は30人・先着順)

○子供工作教室

紙すき体験、竹トンボ作りほか

○リサイクル品抽選会

☎ 地域づくり課 ☎33-1396

まちがあってひとがいて ～魅力あるまちの条件とは～

神奈川県市町村文化行政研究会議交流集会

日時 8月27日(木)午後1時30分から3時45分

場所 中央公民館

内容

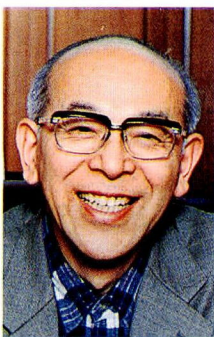
○対談「人のつながりとまちの機能」

生命の星・地球博物館長 小田原城下町大使・濱田隆士さん

ジャーナリスト 東京工業大学講師・宮崎緑さん

○トークコンサート 白井英治さんと小田フィルの仲間たち

☎ 市民交流課 ☎33-1706



濱田隆士さん



宮崎緑さん

ブルーベリーのもぎ採りと ジャムづくり体験

日時 8月22日(土)午前9時～正午

場所 梅の里センター (JR御殿場線下曾我駅前)

内容 果樹園でのブルーベリーのもぎ採りと梅の里センターでのジャムづくり (雨天の場合は、ジャムづくりのみ)

費用 10歳以上1人につき材料費1300円と別にブルーベリー代

定員 50人・先着順

☎ 申込 8月11日(火)から、

梅の里センター ☎42-5321

中央公民館フェスティバル

公民館の利用サークルによる音楽・気功などの舞台発表をはじめ、展示・体験コーナーや模擬店・のみの市、こども映画会などの楽しい催しが盛りだくさんのお祭りです。

日時 8月22日(土)・23日(日)午前10時～午後5時

場所 中央公民館

☎ 中央公民館 ☎35-5300



語り継ごう。平和への祈り 被爆資料展

広島平和記念資料館の原爆の被爆資料と、小田原市の戦災資料を展示します。

日ごろ見過ごされがちな平和の大切さを、改めて考えてみましょう。

日時 8月15日(土)～25日(火)午前9時～午後4時30分 (月曜日休館)

場所 かもめ図書館

☎ 行政総務課 ☎33-1291

小田原の朝市

生産者と消費者が直接ふれあえる朝市を開きます。

○8月9日(日)午前8時から (雨天中止)

小田原城址公園 (水の公園)

○8月30日(日)午前8時から (雨天中止)

小田原市役所前庭

内容 農産物・フリーマーケット

☎ 商工課 ☎33-1514

伝統の技を目の前で ～紋章上絵手描き実演～

小田原城天守閣で開かれている好評の紋章展で、無形文化財の紋章上絵師が手描き実演を行います。家紋に関する質問も受け付けます。伝統の技術をご覧ください。

日時 8月の毎週日曜日 午前10時～午後4時

場所 小田原城天守閣 中4階

*紋章展は、「日本の名城と城主の家紋」をテーマに、8月30日(日)まで開かれています。

☎ 小田原城天守閣 ☎23-1373

広報 おだわら

Aug. 1, 1998 No.728

発行 小田原市 小田原市荻窪300番地 〒250-8555
編集 広報広聴室 ☎0465 (33) 1261 FAX0465 (32) 4640
© 小田原市 1998.8

m

essage

'98 小田原(酒匂川)花火大会

8/8(土) 午後6時30分～ 酒匂川スポーツ広場
☎観光協会 ☎22-5002

寿町ふれあい広場(寿町終末処理場内)を花火大会当日に開放します。
車での来場はできません。

この写真は、小田原の四季観光写真のコンクールで特選に輝いた横田実さんの作品「打ち上げ花火とナイアガラ」です。

小田原の四季観光写真コンクール募集中!

☎平成11年3月31日までに、〒250-8567 小田原市観光協会 ☎22-5002